

1ランク上のシニアライフの話

Nov 25 | Vol61 | 2015

ライフイベント 金額の増加率 ≠ インフレ率

1 ライフイベントを考えるときにインフレを考慮する必要があります。ココでいうインフレとは何を指しているのでしょうか。実は、インフレ率だけではありません

2 一般的に、インフレ率は、消費者物価上昇率のことをいいます。しかし、ライフイベントに要する金額は、物価上昇以外にも、要した量に応じて増減します

3 だから、実際に消費した量の増減と金額の増減であるインフレ率、どちらも加味してライフイベントに要する金額を見積もる必要があります

消費者物価指数

2000年から2014年までの間、消費者物価指数の上昇はゼロでした。つまり、モノの値段は14年間で全く上がらなかったのです。

もう少し詳しく見ると、食料は年率0.4%で、水道光熱費は1.7%で増加し、家具・家事用品は年率2%以上の下落になっていました。インフレ・デフレといえ、通常は消費者物価指数の増減をイメージします。

消費支出額

ライフイベントの金額をも見積もるときにはインフレを考慮する必要がありますがそれだけでは不十分です。

食料であれば購入する量が増減します。通信費であれば、使用する通信の量や種類が増減します。

家計の事情により変動する消費量と世の中の事情で変動する単価。この二つをかけ合わせると、消費支出額になります。

ライフプランで見積もる金額は消費支出額なのです。

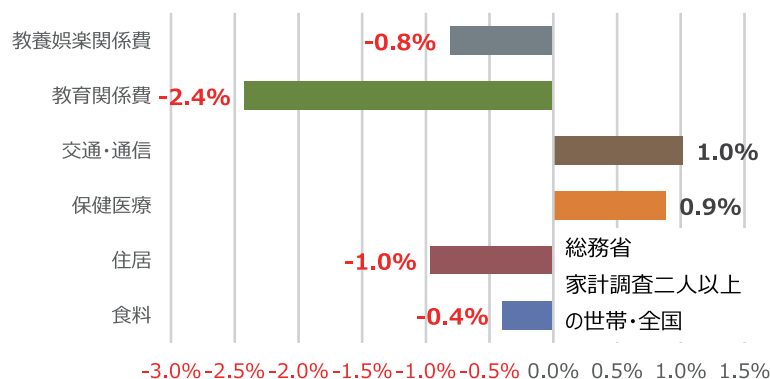


増えた費用・減った費用

消費支出額ベースで見れば大きく金額が減少しているのは教育関係費です。年換算で、毎年、-2.4%も金額が下がっています。

反対に金額が増加しているのは、交通・通信費や保健医療費です。スマホにお金を使って、大学の授業料は奨学金で補てんするというのが現実的な解釈かもしれません。

2000-2014年の消費支出額の年換算増加率



ライフプランに関する相談はお気軽に

Barms
Corporation Co., Ltd.

発行元: バームスコーポレーション(有)

神奈川県川崎市宮前区土橋2-2-301

tel (044) 854-8480 fax (044) 856-7268

✉ pinfo@barms.jp 🌐 <http://www.barms.jp>